だっこするよ

2022年8月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園　長　　奥戸　昌子

8月「平和」について子どもたちと語り合おう

新型コロナウイルス「第7波」が急拡大しています。現在、通常運営をしておりますが、園児、職員から感染者が多数出た場合、また安全な職員配置が難しいと判断した場合は、クラス閉鎖になることもあり得ますので、その際は、どうぞご了承ください。引き続き、消毒、換気など新型コロナウイルス感染防止ガイドラインに添って感染対策を行って参ります。

暑い暑い夏、子どもたちは、水遊びにプール活動にと「水」にふれあい、泥水、色水、泡遊びと一瞬に心と体を解放して夢中になって遊んでいます。体全体の感覚を研ぎ澄ませて、水の感触や水が引き起こす変化を感覚的に掴もうとしています。「水」は、命に必要なものであり、子どもたちにとっては、とても身近な教材です。乳児さんも流れる不思議さを感じ、水を容器に入れたり出したりしながら、そして水鉄砲では的や保育者めがけて発射！子どもも大人も笑顔がこぼれます。「冷たいね」「楽しいね」と共有しながら、保育者や友だちとの絆も深まっています。また、「水」は、時には怖さにも出会うでしょう。プールの中では思うように動けなかったり、目や口に水が突然入ったりします。そんなときに慌てないでどうするか･･･自分の命を守ることを体験していく活動でもあります。

タープやテントを利用し日陰で行っていますが、気温によっては中止とします。ご了承ください。熱中症防止を行い、水分補給や休息をしながら健康に過ごしていきます。

さて、8月15日終戦記念日を迎えます。広島・長崎の原爆投下から77年となります。毎年、こども達と読む本があります。「8月6日のこと」文：中川ひろたか氏、絵：長谷川義史氏の本です。保育士であり絵本作家の中川氏の実話に基づいた広島原爆の絵本です。8月6日に何が起きたのか、穏やかだった瀬戸内海が

原子爆弾投下で一瞬にして地獄となる･･･絵本でありながら、原爆の恐ろしさ、戦争の惨状が伝わってきます。何回読んでも息を呑む場面です。黒焦げの死体の山を見ながら兄を探して歩く妹（中川氏のお母さん）この場面はいつも子ども達がしーんとなります。

私は、戦争体験者でなくても、平和の大切さや命の尊さを子どもたちと語り合うことは、一人の人間として、必要なことだと考えるようになりました。自分事として考えてみること、感じたことを自分の言葉で伝える･･･対話しながら何かを感じて受け取ってくれたら嬉しいです。

そして、収束の見えないウクライナ情勢･･･長期化し日常化していく戦争に胸が痛みます。報道も少なくなってきました。園庭や玄関に4歳児が植えた向日葵が咲き始めました。一日も早い収束を心から願います。

異年齢保育の説明会にご参加いただき有り難うございました。また、今月の6日（土曜）にも同じ内容で行いますのでご都合がよろしければどうぞご参加ください。保護者の皆様からは、異年齢保育の良さも分ったが、同一年齢保育での時間も大切にして欲しいという思いを多く聞かせていただきました。有り難うございました。この切り替えが、子どもたちの不安や負担にならないようにしっかりと配慮していきます。今後も皆さんの声をお聞かせください。

さて、今年も年長さんたちの創意工夫が詰まった御神輿が完成しました。大きな和太鼓も購入しました。盆踊りに、お店屋さんごっこ、和太鼓の響きに誘われて、あちこちのクラスが集まって皆で輪になって踊っています。今年の夏祭りも盛り上がることでしょう。

写真は、つばめ組　　波しぶき　気持ちいいね！！